



○関西圏、首都圏、名古屋圏のコーホート図（図2～図4）から

バブル期（1985－1995年）、バブル崩壊後（1995－2005年）、2000年代（2005－2015年）における、関西圏、首都圏、名古屋圏の人口の増減について、「国勢調査・人口等基本集計結果」（総務省統計局）のデータを基にコーホート図を作成。概要は以下のとおり。

・ 関西圏、首都圏、名古屋圏における人口の増減状況

【 関 西 圏 】

- ・ 25歳以上の年齢層で減少しており、特に30歳から34歳の年齢層で大きく減少している。

【 首 都 圏 】

- ・ 15歳から29歳までの年齢層で大きく増加している。
- ・ 30歳から49歳までの年齢層について、バブル崩壊後までは減少しているが、2000年代では増加に転じている。

【 名 古 屋 圏 】

- ・ 10歳から44歳までの年齢層では概ね微増ないし微減しているが、45歳以上の年齢層では全期間を通じて減少している。

・ 関西圏、首都圏、名古屋圏のコーホート図の比較から言えること

首都圏、名古屋圏と比較すると、関西圏では、特に2000年代において、25歳から34歳までの年齢層で人口が顕著に減少している。